

リベラルアーツを醸成する知と空間、食のコラボレーション —隈研吾氏による設計、学生食堂は上野精養軒—

武蔵大学(東京都練馬区/学長 高橋德行)は、学内施設整備の一環として、2号館のリニューアル計画を進めています。現在の2号館は1980年に竣工し、学生食堂や講義の場として、長らくその役割を果たしてきました。

リニューアルにあたり、「リベラルアーツを醸成する知と空間、食のコラボレーション」を目指し、日本を代表する建築家・隈研吾氏(隈研吾建築都市設計事務所)に建物の設計を依頼、学生食堂「Musashi Dining」の運営を1872年に創業した歴史あるレストラン、上野精養軒に委託します。竣工は2025年7月、供用は9月を予定しています。

新2号館のコンセプト

1. 「知をつなぐ」空間

建学の精神である「東西文化融合」「世界雄飛」「自調自考」を体現し「知を融合する」空間、を基本コンセプトとしています。分野横断的な知をつなぐ、伝統と現在をつなぐ、食と情報をつなぐ、街路と広場をつなぐ、など「つなぐ」ことで生まれる既存の建物との一体感や、学生の専門領域を超えた交流・協働・連携を促進します。

2. 伝統と先進性に配慮した空間

SDGs(持続可能な開発目標)に配慮し、森林資源の循環利用推進のため木材の積極的使用や、バリアフリー化などダイバーシティを包み込む柔らかな建築設計で、学生の居場所・活動スペースの確保を実現します。

3. 食のリベラルアーツ&サイエンス

「食のリベラルアーツ&サイエンスを実現する学生食堂」をコンセプトに設定。学生食堂は食の構成要素を五感で学ぶ、食が醸成する文化を体験する、食のデータサイエンスに接近するという三つの側面を備えた空間です。

計画概要

- ・建設場所 江古田キャンパス内
- ・建築面積 建築面積 1132.13㎡、
延床面積 4478.47㎡
- ・構造 鉄筋コンクリート造
- ・建物概要 地上5階
- ・施設内容 1、2階 学生食堂(284席)、テラス席(48席)、
カフェテラス席(163席)など、
3階 事務室
4、5階 教室 ほか



※計画内容に変更が生じる場合がございます

—報道関係者問い合わせ先—

武蔵大学 広報室 担当:増田・五月女(ますだ・そうとめ)
TEL:03-5984-3813 E-mail:pubg-r@sec.musashi.ac.jp

■武蔵大学 日本で初めてリベラルアーツ教育を行った旧制高等学校がルーツ

〔アクセス：西武池袋線「江古田駅」から徒歩6分〕

武蔵大学のルーツは、東武鉄道や東京地下鉄道（現東京メトロ）など多くの鉄道事業に携わり「鉄道王」と呼ばれた根津嘉一郎（初代、1860～1940）が、1922（大正 11）年に私財を投じて創立した日本初の私立七年制の旧制武蔵高等学校。戦後の学制改革により、1948（昭和 23）年4月に新制武蔵高等学校、翌年に新制武蔵大学、新制武蔵中学校が開設され、学校法人根津育英会武蔵学園として現在に至る。一年次から4年間のゼミナール（小規模で対話型の授業を含む）が必修で「ゼミの武蔵」といわれる。

2012年には、外国語や異文化を楽しみながら学ぶことのできる国際村 Musashi Communication Village（通称 MCV）を開設、キャンパス内留学の拠点とした。

2020年3月には、ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラムにおいて初のロンドン大学学位取得者を輩出、グローバル教育の更なる発展に力を注いでいる。

2022年4月、学園創立100周年を迎えたこの年に、新学部となる国際教養学部を開設し、経済、人文、社会、国際教養の4学部9学科となった。

建学の三理想

1. 東西文化融合のわが民族理想を遂行し得べき人物
2. 世界に雄飛するにたえる人物
3. 自ら調べ自ら考える力ある人物

学長 高橋 徳行 〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1



武蔵学園 2022